

ハーブソン Hokkaido 2016

結果・速報版



北海道爬虫両棲類研究会

はじめに

2016年4月15日～8月15日まで、北海道爬虫両棲類研究会主催は「ハーブソン Hokkaido 2016」を開催しました。本年も大きな事故の報告もなく無事に終了できました。参加して下さった方々、協力して下さった方々に御礼申し上げます。また、様々な地域での活動報告を頂いたことに大変感謝しております。

本イベントの詳細な報告、及び結果等については、数年のデータの蓄積の上取りまとめますので、2017年度を目処に作成を予定しております。

北海道爬虫両棲類研究会
会長 徳田龍弘

調査の結果について

参加チーム数: 12 チーム

アマアマアマアママガエル、イタバシ、チームばにら、ばいかだ、滝野の森、チームやまはな、自然ウォッチングセンター、タイキフローラ蛙探偵団、碧い風、北海道トカゲ調査隊、ビッキーズ、わんぱく遊び隊！

参加者数: のべ 80 名

調査されたエリア: 65 エリア(期間外の情報を頂いたエリアが他に1)

期間内調査で確認された種: 18 種

ヒガシニホントカゲ・ニホンカナヘビ・コモチカナヘビ・ジムグリ
アオダイショウ・シマヘビ・ニホンマムシ・クサガメ・ミシシippアカミミガメ
キタサンショウウオ・エゾサンショウウオ・ニホンアマガエル・エゾアカガエル
アズマヒキガエル・ツチガエル・トウキョウダルマガエル・トノサマガエル
ニホンヤモリ

頂いた生息データ数:

正式記録(確認データあり): 162, 参考記録(確認データなし): 18

その他の期間記録(確認データあり): 7

各詳細データについて

速報データは以上です。細かな種ごとの分布や検討などについては、2017年発行予定の研究報告内にて行う予定です。

受賞等について

「ハーブソン Hokkaido 2016」では、一生懸命調査をして下さった方々に4賞を検討いたしました。各受賞チームには賞状及び粗品を年度末に贈呈する予定です。

★最優秀賞

ハーブソン期間中に最も多くの種を、正式記録として報告して下さったチームです

受賞者： **アマアマアマアママガエル**(14種)

2位： ばいかだ(10種) 3位： 滝野の森(9種)

★ばいかだ賞(推奨地域最多エリア調査賞)

ハーブソン期間中に最も多くの指定地域内のエリアを、調査して下さったチームです。今年はオホーツク振興局エリアでした。自分が受賞！なかなかこの賞は難しいですね！

受賞者： **ばいかだ**(6エリア) 次点 : 全チーム(0エリア)

★Booby3賞

種数が最下位から3番目の方、1チームに授与。同種確認チームが3チームおりましたので、抽選の結果、以下のチームが受賞しました。

受賞者： **イタバン** (3種)

次点 : 碧い風(3種) 次点 ; タイキフローラカエル探偵団(3種)

★中島宏章賞(写真賞)

調査写真から、特に写真賞に応募のあったものを、野生動物写真家の中島宏章氏(<http://hirofoto.com/>)に選定していただきました。

これらの写真(応募のあった写真)については、2017年1~2月に予定されている、北海道爬虫両棲類研究会大会にて飾る予定です(2L版)

受賞者：**アマアマアマアママガエル**(写真題:ドーナツからの熱視線)

次点 : 北海道トカゲ調査隊(写真題:発見！小さな命)



ドーナツからの熱視線



発見！小さな命

中島さんから

まず、受賞写真は題名のセンスもいいし、構図も素晴らしいと思います！

おわりに

この発行物は速報ですので、簡易な発表になっております。細かな種の分布確認や考察、参加者の感想やハーpsonの今後についてなどを細かく記録したものは、データを蓄積して、2017年度発行予定の「北海道爬虫両棲類研究報告」内もしくは別冊版にて報告する予定です。「ハーpson Hokkaido 2016」を実施するにあたり、慢性的な人手不足と運営の経験から大きな規模で出来なくて申し訳なく思います。今後もなんとか、予算等工面して大きく開催できるよう考えていきたいと思っております。

今回は前回より参加チーム、報告データ数が多くなりました。2017発行予定の報告書にもたくさん結果を反映できると思います。また、釧路からニホンヤモリの記録がありました。ショッピングセンターの材木売り場での確認で、流通上の混入と疑われます。おそらくは今年しか生き延びることは出来ないと思われそうですが、2015年にはシュレーゲルアオガエルが恵庭市内で確認される(植物移送からの混入が疑われています)など、道外からの意図しない移入もあるため、今後も移入種については「いないだろう」より「いるかもしれない」の体制で見えていく必要があるかもしれませんね。未調査地区の調査推進のために設けた「ばいからだ賞」ですが、なかなかこれも、調査の起爆剤としては今ひとつのところもあり、昨年受賞者なし、本年受賞者は主催のみと、今後も検討が必要と思われそうです。できれば調査エリアの発展のためになるように、今後も可能な限り残せればと考えていますが……。

ハーpsonはデータを蓄積することに意味があります。来年度は取りまとめの発行物を発行していく予定で進め、別途、速報の発行や、賞授も行う「ハーpson Hokkaido 2017」を実施する予定です。時期が近づきましたら、お知らせいたしますのでぜひご参加下さい。

今後ともハーpson Hokkaido 及び、北海道爬虫両棲類研究会をよろしく願いいたします。

執筆：徳田龍弘(北海道爬虫両棲類研究会・会長)

北海道爬虫両生類研究会

〒005-0021

北海道札幌市南区真駒内本町7-4-27

会長 徳田龍弘